

熱田神宮の奇祭「オホホ祭り」

熱田神宮には毎年多くの人々が参拝に訪れ、その中には御神体として草薙神剣が祀られていることを知って訪れる人も多く見られます。この草薙神剣は三種の神器のひとつであり、素戔鳴尊がヤマタノヲロチを倒した際にその尾の中から現れたという神話はあまりにも有名ですがこの草薙神剣にまつわる「オホホ祭り」という神事をご存知でしょうか。

先日、きよめ餅総本家さんの「おほほ」というお菓子をいただく機会がありました。



「おほほ」という名前が印象的なこのお菓子ですが、添えられた紹介文を読んでもみると実は熱田神宮で行われている、とある神事が名前の由来となっているそうです。

今回はこの名前の由来となった「オホホ祭り」についてご紹介します。

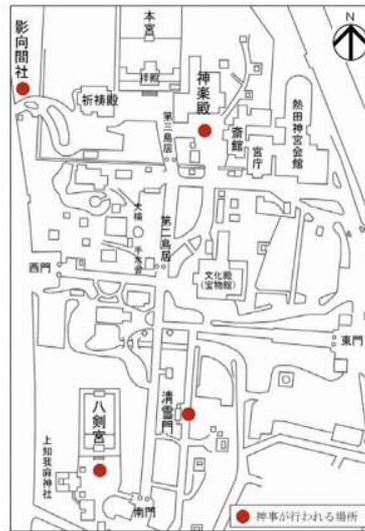
「オホホ祭り」は、「酔笑人神事(えようどしんじ)」という名の熱田神宮の神事のひとつです。

灯りが全て消され暗闇となった境内で、神事を行う祭員たちが影向間社、神楽殿前、別宮八剣宮前、清雪門前の4か所を巡りながら歓喜の高笑いをするというもので、毎年5月4日の午後7時から行われます。



(提供:熱田神宮)

「オホホ祭り」は神宮内の影向間社から始まり、まず神職たちはこの影向間社にて古くから見てはならないとされている神面を受け取り、袖の中に隠し持ちます。面役の祭員が中啓と呼ばれる扇で神面を軽く叩いたあと「オホ」と発声すると、その後の笛の音に合わせて全員が一斉に「オホホ」と大声で笑い出します。影向間社での行事が終わると続いて神楽殿、別宮八剣宮を巡り同様に大笑いをした後、最後に清雪門へと向かいます。



(出典：名古屋市歴史的風致維持向上計画)

清雪門での大笑いが終わると神面を筥(はこ)の中に納め、祭員たちが参道を通して齋館へ戻り、神事は終了します。

この「オホホ祭り」の起源は天智天皇の治世の頃まで遡ります。道行という名の僧侶が草薙神剣を盗み、朝鮮半島の新羅へ持ち去ろうとしましたが、途中で暴風雨に遭い、道行の企みは失敗に終わります。この事件が起こって以来、草薙神剣は皇居に留め置かれることになりました。しかし、天武天皇の勅令により熱田神宮へ還ることが決まり、皆がこぞって喜んだそうです。この逸話が起源となった「オホホ祭り」は草薙神剣にまつわる逸話を現代まで語り継ぐ大切な役割を果たしています。

熱田神宮の御神体・草薙神剣にまつわる逸話を現代に伝えるという役割を果たす一方で真っ暗な境内を巡りながらひたすら高笑いをする祭員たちを参拝客がぞろぞろと後を追いながら拝観する様子が非日常的であることから日本の奇祭として紹介されることも多いようです。

神事と言えば厳肅な雰囲気の中行われるものを想像してしましますが、
そんなイメージとは少し異なるのがこの「オホホ祭り」であり、
神事ではあるものの、どこか非日常的で親しみやすさがあるというギャップが
この神事の魅力なのではないかと感じました。
神事を行う側だけでなく、拝観する側もきっと笑いがこぼれてしまう熱田神宮の奇祭、
みなさんも一度参加してみたいはいかがでしょうか。